

広報



No.323

しらす

平成9年  
7・8月号



感動の  
ゴールイン

7月13日十三湖で行われた「第1回あおもりけん十三湖横断ウォーク」からのワンシーンです。

水の中を歩いて渡るという初めての体験に悪戦苦闘の末、中の島に上陸した参加者は、ゴール地点でお互いの完歩をたたえながら握手や万歳三唱が行われていました。



## 十三湖をみんなで歩いて渡ろう

第1回

# 十三湖横断ウォーク

「第一回あおもりけん十三湖横断ウォーク」が七月十三日十三湖で行われ、県内外から参加した百八十八人が交流を深めました。

### きっかけは昔の思い出

「昨年中の島で開かれた「第一回活彩あおもり交流会」で浦村の資源を活かして地域おこしに活用できるものを検討していたとき「昔、中の島は橋がかかってなく、歩いて渡っていた」の一言がヒントになって計画が

始まりました。その後実行委員による数回の歩行調査を経て時間や安全性をチェックした後今回のコースである鯉(にしん)崎から中の島までの約四キロのコースとなりました。

### 中の島めざしていざ出陣!

当日は絶好のウォーク日よりで、参加した百八十八人の中に県内はもちろん、県外では北海道から福井県までの参加があり、年齢層も幅広く十代から七十代までがウォークにチャレンジすることとなりました。

開会式では高松村長が「全国各地からたくさん参加があり感謝します。道無き道を歩くウォークは世界にも例の少ないユニークなイベントです。二十一世紀への新しい道を開くために

も事故のないようにこのイベントを成功させ、全員完歩されるようがんばってください」と挨拶をしました。次に参加者を代表して宮城県気仙沼市から参加した昆野道孝さんから「水に親しみ、互いに励まし合い、ケガのないように歩くことを宣言し

各地からたくさん参加があり感謝します。道無き道を歩くウォークは世界にも例の少ないユニークなイベントです。二十一世紀への新しい道を開くために



▲宣言をする昆野道孝さん



▲男まじいかけ声で志気が高まりました

ます」と力強くウォーク宣言が  
されました。  
開会式終了後、移動したスタート地点の練習では安東水軍の武者にふんした若者から「十三湖への上陸を許可する」と書かれた通行手形が手渡された後、のろしに見立てた花火の合同により出陣の号令がかかり、「エイ、エイ、オー」のかけ声と共にウォークスタート。歩くたびにどんでん深くなり、最終的には腰まで浸かった状態になり、参加者はこれまでに経験したことのない新鮮な感覚を味わいながら



▲武者から手形が渡されました

スタート地点から休憩所の相内川河口を通過し、ゴール地点までの道のりを二時間程度で脱走者もなく全員完歩しました。

その後昼食ではおにぎりとしじみ汁が配られ「このしじみ汁は地元でなければ味わえない」と大満足。ラストは十三の砂山や相内虫送りの



潮れそうで潮れないところがスリルがあり楽しい。かつて市浦村に教師として赴任し、遠足で橋の架かっていなかった頃の中の島へ歩いて渡ったことを思い出し、四十年前にタイムスリップしたようでした。



川浪元司さん(木造町)

## ウォーク終了後は交流会

交流会は中の島ブリッジパークで行われ、工藤助役が「多くの参加により十三湖横断ウォークが盛大にできたことに感謝します。今後一層充実した内容を考えていきたいと思っております」と挨拶。続いて完歩証の交付式やプレゼントコーナーが行われました。



▲プレゼントコーナーも大盛況でした



エマバーカーさん(八戸市)

## 参加者のコメント

南部に住んでいるので、津軽へ来たのは初めてですが、環境も素敵だし、しじみも美味しいととてもいいところでした。

# NEWS FLASH

## 手 作りのお器をプレゼント

「脇元老人いきがいセンター」で陶芸教室を中心に活動を行っており、そこで作られる「もや焼き」は各方面で好評を得ています。また陶芸教室以外にも各種ボランティア活動も行っており、内湯療護園にも十五年前からボランティアとして参加していることがきっかけで交流が行われるようになり、今回は手作りの食器をプレゼントすることになりました。内湯療護園で使用している食器は手の不自由な人がスプーンですくいやすいよう傾斜が付けられるなどの工夫がされており、食器を安定させるためにある程度の重さがある陶器製となっているのですが、市販はされていないものでした。



▲7月2日の贈呈式

今回制作された食器はどれも非常に完成度が高く、「手作りの温かみがある」「次回もぜひ作ってほしい」と大好評でした。



▲今回贈呈された食器

## 野 外活動を通じて交流を深める

「ジュニアリーダー研修会」  
七月二十四日、二十五日の二日間にわたって「ジュニアリーダー研修会」が大沼公園で行われました。

これは村内小学校五年生を対象に、子ども会のリーダーとしてより積極的な社会活動を行うために、必要知識・技術・行動を学習し、資質の向上につとめ、村内、上ノ国町小学校との交流を深めることを目的に毎年行われているものです。今年の上ノ国町から小砂子(ちいさこ)小学校、早川小学校、大崎小学校、宮越小学校、湯ノ岱(ゆのたい)小学校の五年生三十名と村内小学校五年生二十六名が参加しました。参加した子供達はテント設置



▲力をあわせてテントの設置

## 地 域社会に貢献していきます

市浦村社会福祉協議会

さる七月三十日(水)、市浦村社会福祉協議会(会長 奈良幸雄)が、全労済青森県本部の通常総代会で助成事業の対象に選ばれ、助成金の贈呈を受けました。

これは、全労済の「地域社会に貢献する活動」の一環として「環境や高齢化問題の活動・研究」に取り組んでいる団体に年間八千万円の範囲内で助成する事業のひとつです。

市浦村協が「高齢者在宅介護支援活動のための介護機器購入」の申請で、九十六年度、購入



▲目録を手にする奈良会長(左)

## 大 先輩から素敵なプレゼント

脇元小学校にピアノを贈呈

この度脇元小学校にピアノが寄贈されました。寄贈されたのは磯松地区出身で現在は東京都在住の小野勝男さん(昭和十一年度脇元尋常高等小学校卒業)です。「昔お世話になった学校にお礼のピアノを寄贈したい」と連絡があり今回のこととなりました。

今回送られたピアノは約八十万円と大変高価なものでした。受け取った脇元小学校は「わが校にとって一生の宝物になる」と小野さんに感謝し、ピアノの



▲子供たちは大喜びでした

### 善意に感謝します

㈱サカタ事務機様 30万円  
三和満様 10万円

㈱サカタ事務機(本社青森市)の坂田則昭代表が役場を訪れ、「十三湊遺跡発掘等に役立ててください」と昨年に引き続き30万円を寄付されました。また市浦村出身で、現在は㈱津軽鉄道の代表を務める三和満さんからは「福祉に役立ててもらいたい」と昨年に引き続き10万円を寄付されました。

市浦村ではサカタ事務機と三和満さんの善意に感謝し、今回の寄付金も十三湊遺跡発掘、または村の福祉基金へ繰り入れて有意義に活用することとしています。ありがとうございました。

この度十三・脇元郵便局に新局長が赴任されました。十三郵便局は金木郵便局より転任された丁子谷勇さん、脇元郵便局は出精郵便局(木造町)より転任された藤田善成さんです。



▲藤田善成さん



▲丁子谷勇さん

**よ**  
ろしくお願いします  
十三・脇元郵便局新局長

送られました。送られた文集やビデオを見た小野さんはいよいよ感動し、後日届いた手紙には「今回送ったビデオが学校のみなさんにお役に立つことが出来てうれしい」と書かれています。



▲小野勝男さん

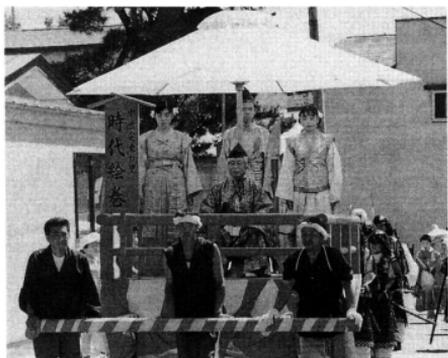


▲婦人会のみなさんによるしゅうら音頭の流し踊り



▲相内小学校による鼓笛隊

## 7/26 東日流安東まつり



時代絵巻パレードスナップ



▲気分はすっかりお姫様?



▲時代絵巻パレードオールスターキャスト



# 後三年の政

74

## 義家退去の理由

前号において国司義家が全軍を国府多賀城へ引き上げたことに触れましたが、それには義家が奥羽・兩州の地理的事情に精通していたことに因るものでした。

陣中会議においてさまざまの意見が出されました。その一つは、この度の戦いは朝廷の命令によってなされたものではなく、奥州の清原一族の勢力争いに巻き込まれた私的な戦闘であったとのこと、そのため兵士たちの食糧は朝廷の命令によって発する官符をもつて徴収することが出来なく、国府取



義光新羅大明神に参詣する(前本筆記所収)

糧城である奥州一國の租税で賄われればならなかつたこと、その上半年(寛治三年一〇八九春からの戦いで百姓たちがその難を逃れて四方に分散したため農業に専念する者が少なく奥州は飢饉同様の状態)軍糧の調達も思うようにならず兵士が疲れ切っていたこと、武衛・家衡の金沢橋は要害堅固で、しかも兵糧を山の如く積んでの籠城であつたため疲れた様子が見えないこと、一番の心配はもう九月の下旬で奥羽では痛烈な寒さに向かつていたこと、義家は「前九年の役」に参加戦し、また一時出羽の国司に就任し、奥羽の冬季節の生活を痛く経験している年の戦いの統行は味方に大損害を与えることの自明を察していました。

また、戦いを強行しても破れるようなことがあれば、飢渴に恐れて再び軍勢を催促しても應ずる者が少ないことであるから今年は味方の兵糧がつきようとしてゐる状態を敵が察しない前一旦国府に帰郷し、明春の陽氣を得、また兵糧を十分に獲得して再度攻略した方が得策であるという意見が続出し

ました。義家もその意見でしたので国衡へ引き帰したのでした。寛治三年の十月一日のことでした。

武衛・家衡の城中ではこれを見て、寄手(義家軍)は勝利にありながら急に囲を解いて陣を引くということは義家が死亡したためであろうか、それとも病氣になつたためであろうか、それとも意気込んだ者が多かつたが、いやいや義家ほどの名将が思慮分別もなくこんな容易に引取る筈がない、策略に乗るなど日頃の義家の勇智に恐れ、ただ高橋から見物していたといふことです。

### 義光の奥州下向

義家に新羅三郎義光という弟がいたことは村民の皆さんも存じかと思ひます。父頼義の三男です。わが津軽安藤氏と最も関係の深かつた蛸崎・松原家の先祖にも当主武士です。

この頃義光は、左兵衛尉という官職に就いていて朝廷の護衛兵でしたので、常に京都において大内の宿衛で勤仕する身分にありました。とりわけ兄思ひの義光は、兄義家が清原武衛・家衡といつて苦難に立っている様子を聞くにつけても、居ても立ててもらえない気持でした。遂に天皇に願書を提出します。「兄義家が敵を得て戦つていますが、比類ない強敵で身に危険を覚えるとの

知らせがありました。どうかこの義光にお暇を下さい。奥州に下つて兄と力を合せて敵を滅ぼしたいと存じます」と、度たび内へも殿下へも嘆願しましたが、白河上皇からお許しがありませんでした。院政の始めなので院宣がなければならなかつたのです。

そこで、思い切つて院へも参り「兄義家が興(武衛・家衡を指す)に攻められてゐるけれども、源氏一族の都人が一人も味方に馳せ参じないと言われることが残念です。どうか義光の奥州下向をお許し下さい」と、再三にわたつてお願いしますが、奥へ下つて義家を救い出すよりも都で大内を守護することが忠義といふものである」と、却下されてしまいました。

義光は力及ばず悶々としながら月日を数えて寛治四年二月下旬になつてました。義光は遂に決断します。後日朝廷より罰せられようと、兄義家に助力しなければ先祖に對して申し訳が立たない、ひそかに仕丁を申し寄せ奥州へ下向する準備をするようにと私宅へ走らせます。そして、自ら官を辞することを衛府の事する筈袋に入れて陣に懸けて置き、夜半になつてひそかに衛府を出ます。宿所では藤原季武・同秀光・藤河口季賢が旅の準備をして待つていました。そして、右三人と下部等二十人ばかりを召し連れて奥州へ下向したのでした。

## 「行方不明の人をさがす相談所」 が開設されました。

青森県警察では8月中「行方不明の人をさがす相談所」を開設しました。

あなたの身内や近所に  
・病気、借金等を苦にして家出した。  
・突然いなくなり、自殺や事故死しているのではないか。  
・出稼ぎに行き、途中から音信が途絶えた。

などの方はおられますか？

行方が分からない方の中には、犯罪に巻き込まれて不幸な生活を送っていたり、人目を避けて淋しく生活している方も多くおり、警察ではこのような方々を早く発見し、家族の元へ帰ることができるよう全力を挙げて捜しています。

また、自殺や事故死、あるいは何らかの形で犯罪の被害者となつて身元が分からないまま亡くなった方についても、一刻も早く身寄りの方に遺体を引き取って頂けるように、期間中は特に全国の警察と連携をとり、集中的に追跡調査を行います。

安否を気遣っておられる方は、遠慮なく警察本部が最寄りの警察署にご相談ください。

また下記警察署で特別相談日を設けておりますのでご利用ください。

### ▶特別相談日及び場所

8月18日(明) 弘前警察署

8月20日(水) 青森警察署

### ▶開設時間

午前10時から午後3時まで

### ▶お問い合わせ先

金木警察署 TEL 53-2117

## 経営安定特別相談事業 「価値あるノレンを守るために」

現在相当数の倒産が発生しており、その大半は中小企業です。事業の存続、再建にはどんな手を打つべきか、従業員の補償は等…対策に苦慮し地域経済への影響はもとより、社会的影響も深刻です。

政府は、中小企業に焦点を当て、都道府県の各商工会連合会に「経

営安定特別相談室」を設けています。

相談室では幅広い相談活動を展開し、倒産防止、倒産に伴う社会的混乱等を未然に防ぐよう努めていますので「早め、早め」にご相談下さい。

相談は無料で個人の秘密は厳守されます。

### ▶相談室所在地

木造町字若宮1-4

(木造町商工会館2階)

青森県商工会連合会

広域指導センター木造支所

TEL 42-1565

## ご利用ください 交通遺児等育成資金制度

自動車事故対策センターで、交通遺児をすこやかに育成するための資金を無利子でお貸しします。

### ▶利用できる方

自動車事故で保護者を亡くされた子供、または、重度後遺障害者

(自賠責保険の一級～三級)に設定された方の子供を現在扶養している保護者

### ▶対象者

0歳から中学卒業までの子供

### ▶申込者

子供を扶養している保護者

### ▶貸付金額

一時金 152,000円

月額 19,000円

入学一時金 43,000円

(小中学入学時)

### ▶返済方法

最終学校卒業後割賦(月賦、半年賦、年賦)による20年以内の均等返済

なお、詳しい内容につきましては、お気軽にお問い合わせください。

### ▶お問い合わせ先

青森市大字浜田字豊田139-21

自動車事故対策センター

青森支所

TEL 0177-39-0551

## 平成9年度自衛官等募集のお知らせ

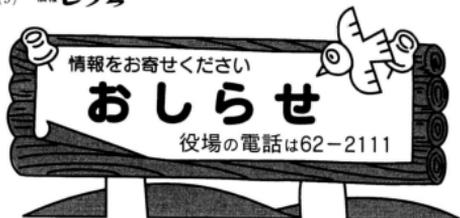
平成9年度の自衛官募集の日程が決まりましたのでお知らせします。

募集項目	資格	受付	試験日
防衛大学校	高卒(見込み) 21才未満の者	9月16日	1次試験 11月15日～16日
		10月14日	
防衛医科大学校	高卒(見込み) 21才未満の者	9月16日	1次試験 11月1日～2日
		10月14日	
航空学生	高卒(見込み) 21才未満の者	8月1日	1次試験 9月23日
		9月9日	
看護学生	高卒(見込み) 22才未満の女子	9月16日	1次試験 10月30日
		10月14日	
一般曹候補学生	18才以上 24才未満の者	8月1日	1次試験 9月21日
		9月9日	
曹候補士	18才以上 27才未満の者	8月1日	1次試験 9月21日
		9月9日	
2等陸海空士	18才以上 27才未満の者	8月1日	男子 9月16日～ 18日の一日 女子 9月29日～ 30日の一日
		9月12日	

### ▶お問い合わせ先

五所川原募集事務所

TEL 0173-35-2305



市浦村の人口と世帯数 平成9.7.1現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相内	1,293	1,295	409
桂川	69	69	23
太田	287	287	90
脇元	543	543	198
磯松	301	302	109
十三	790	793	251
計	3,283	3,289	1,080

省エネルギーにご協力をお願いします

事業所等の業務部門で使われるエネルギーの量は、第1次石油危機が発生した73年と比べて7割以上も増えています。今後、OA機器の増加等に伴い、事業所におけるエネルギー消費は増大していくことが見込まれます。また、私たちが使うエネルギーの約8割は石炭・石油等の化石燃料の燃焼等によって得られます。これにより二酸化炭素等温室効果ガスが発生し、地球規模の気温の上昇などが引き起こされるのが懸念されます。この地球温暖化問題への対応は緊急の課題となっております。不用時のこまめな消灯などの工夫で省エネルギーに御協力いただけますようお願いいたします。

交通事故死半減をめざして「私の提言」募集中

日本交通安全教育普及協会では「交通事故死半減をめざして」をテーマに、広く提言を求めることになりました。募集要項については以下のようになっています。

1. 課題

「交通事故死半減をめざして」をテーマとする具体的な提言論文

2. 部門・応募資格

- ①一般部門→日本在住の満16歳以上の個人（高校生部門の該当者を除く）で国籍は問わない。
- ②高校生部門→高等学校に在学中の個人で国籍は問わない。

3. 応募規定

表紙（1枚目）に下記の事項を必ず書き入れること。  
 ①部門②題名③提言要旨（200字以内）④氏名（ふりがな併記）⑤郵便番号・住所（ふりがな併記）⑥電話番号⑦生年月日⑧職業（高校

生の場合は、在学の学校名と学年）

⑨性別⑩この企画を何で知ったか

⑪運転免許の有無と種類

※1人につき1作品の応募で、未発表の作品に限る。

※応募の作品は、返却しない。

※著作権は財団法人交通安全教育普及協会に帰属する。

4. 応募形式

1,200字以上、4,000字以内で、必ずA4判の用紙を用いること。

※手書き原稿の場合には、原稿用紙を用いる。

※ワープロ原稿の場合は、40字×40行でプリントする。

5. 日程

応募締切 平成9年9月20日

（当日消印有効）

審査結果の発表

平成10年3月上旬

6. 応募先

〒106 東京都港区西麻布3丁目  
 24番20号交通安全教育センター  
 (財)日本交通安全教育普及協会  
 私の提言募集係  
 TEL 03-3478-1834

「精神障害者保健福祉手帳」をご存じでしょうか

精神障害者保健福祉手帳は、精神障害者の方の社会復帰を支援することを目的に平成7年に創設されたもので、五所川原保健所で申請を受け付けています。

この手帳によって、通院医療費公費負担が簡素化されるほか、生活保護の障害者加算の認定や所得税・住民税の障害者控除といった税制の優遇措置や浅虫水族館の入場料の減免が受けられます。

なお、申請書類や手帳によるサービスは、申請する人によって異なりますので、詳しくは、五所川原保健所までお問い合わせください。

▶お問い合わせ先

五所川原保健所 TEL 34-2108

「農業やりくり相談所」をご利用ください

農業で自立するには、借地や農作業の受託等による規模拡大や夏秋トマト、ハウスねぎなど収益性の高い作物を積極的に導入して所得の拡大を図っていく必要があります。

そのために、農家の皆さんが抱えている問題等の相談に応じるため別表により、普及センターに「農業やりくり相談所」、町村に「農業やりくり移動相談所」を開設しています。御利用をお待ちしています。

	普及センター	市浦村
開設期日	毎週木曜日	毎月第3水曜日
時 間	9時～16時	13時～15時
場 所	普及センター	経済観光課 農業委員会

▶相談活動の内容

- ①簿記や家計簿記載（複式簿記帳を含む）
- ②青色申告
- ③認定農業者制度
- ④農業改良資金、就農支援資金、農地取得資金、農業近代化資金、スーパーL他
- ⑤農地の借り入れ、貸し出し、農作業の受委託の希望
- ⑥パソコンの利活用（アップルネットへの加入を含む）
- ⑦営農大学校（七戸町）への入学や県が実施する各種研修
- ⑧省力・低コスト技術の他、新作物の導入など

▶お問い合わせ先

市浦村役場経済観光課

# 健康への道

No.109

## 虫さされ対策 ▼「こ」がポイント ▲

②かいたりこすったりするとかゆみを増すばかりか化膿したり治りが遅くなるので、かいたりこすったりしない。  
③お風呂はぬるめの湯にさっと入るようには、アルコールや刺激物を控える。  
④症状の出方により個人差もあるので、だんだん症状がひどくなるようなら医師の手当てを。

戸外へ出る機会が多くなるにつれて、誰もが頭を悩ますのが「虫さされ」です。  
そこで今回は、海や山、そして日常生活でも頻繁に起こりうる「虫さされ対策」について考えてみましょう。

### ◆虫にさされないようにするには？

①山や高原、海などの虫が多い場所では、長袖や長ズボンを着用して、なるべく肌の露出を避ける。  
②蚊とり線香や防虫スプレー、かゆみ止めなどを忘れずに準備する。

### ◆カ、ダニ、ノミなどに刺されたら？

虫さされで最も多いのが、カやダニ、ノミによるものです。  
①市販のかゆみ止め（抗ヒスタミン軟膏など）を塗って様子を見る。かゆみや痛み、腫れがひどいようならぬれタオルなどで刺された部分を冷やす。

### ◆毒蛾にさされたら？

蛾の中には毒毛を持ち、さわると皮膚炎を起こすものがあります。蛾や蛾の幼虫に触れたときにはすぐ水で洗い流しましょう。また、強めのステロイド（副腎皮質ホルモン）軟膏を処方してもらって症状が軽減します。  
◆ハチや毒グモにさされたら？

①まず針が残っていないか確認し、あれば毛抜きなどで抜く。  
②水を流しながら毒液をもみ出し、かゆみ止めを塗る。冷湿布も症状を軽くするのに役立つ。  
③毒グモにかまれたことがわかった場合はすぐにさされた部分を水で洗い、専門医の診察を受ける。

◆ムカデにかまれたら？  
すぐ傷口より心臓に近い部分をしばり、医師の手当てを受ける。

◆こわいアナフィラキシーショックとは？  
ハチやムカデなどにさされた時に最も注意が必要なのは「アナフィラキシーショック」です。以前にハチなどにさされたことのある人が2回目にはさされたときに、まれに起こる場合がありま

す。激しいアレルギー反応によるショック症状で呼吸困難や嘔吐、めまい、意識喪失などの症状が出る場合があります。命にかかわることもありますから、もしハチにさされた後、気分が悪くなったような場合は、直ちに救急車を呼びましょう。虫さされに注意して家族みんなですくすく夏を乗り切りましょう。

役場の電話番号は

**62-2111**

です。  
ご用の方は間違わないようご注意ください。



### ▽お誕生

川村 明日香(相内) 勝弘  
福井 みなみ(十三) 万壽雄

### ▽ご結婚

(秋田谷) 勉(桂) 川内  
(長内) 留美子(鶴) 田  
(松本) 強(東) 京  
(奈良) 真奈美(太) 田

### ▽おくやみ

米谷 キサ(相内) 90歳  
石岡 貞一(鶴元) 78歳  
古川 フミ(十三) 83歳  
成田 彦(鶴元) 83歳  
高杉 キミ(太田) 78歳

(三) 和大純(相内)  
(大) 奈緒子(相内)  
(本) 宮本久一(板柳)  
(宮) 宮本久一(板柳)  
(相) デルロサリオブエラテレシタ(フイリピン共和国)  
(小) 林正守(宮城)  
(三) 上勝也(相内)  
(小) 林礼子(中里)

あおもり 県民カレッジ

10月開校 入学者募集

入学申請受付中

あおもり県民カレッジは、県や市町村、大学、高校、民間事業者等の連携による生涯学習支援システムです。

◆様々な種類の実践する講座が学習の場となります。  
◆学習に関する情報や相談等のサービスを受けることができます。

◆どなたでも無料で入学できます。  
◆詳しくは、公民館等に配置してあるパンフレットをご覧ください。

県民カレッジに関するお問い合わせは  
青森県総合社会教育センター(あおもり県民カレッジ事務局)  
〒030-01 青森市民川字編戸119-7 TEL:0177-62-1131